

「UAE・ルワイス LNG プロジェクトの最終投資決断の実行」

オンライン事業説明会 質疑応答

1. 日時： 2024年7月16日(火)16:00～16:40
2. 出席者： エネルギー第二本部 中東天然ガス事業部長 鹿目 貴志
エネルギー第二本部 戦略企画室長 盛谷 陽昭
IR 部 次長 阪本 和之

3. 質疑応答：

Q1：安定収益が実現可能な案件との説明であるが、具体的な当期利益(PAT)・基礎営業キャッシュ・フロー(COCF)の規模感について教えて頂きたい。

A1：具体的な PAT・COCF といった定量情報についての開示は控えたいものの、当社が組む他 LNG 案件と遜色ない収益性を見込んでいる。また、他外資各社も夫々の投資ハードルレートを達成し参画している点も申し添えたい。

Q2：クリーン LNG 事業とすることに伴い一定の事業開発費用増加が懸念されると思うが、LNG 販売に於ける、クリーン LNG に対する付加価値について教えて頂きたい。

A2：個別の LNG 販売協議の内容については、販売先との守秘義務の観点からコメントを差し控えたい。

Q3：規模感のある安定収益を期待しているとの説明なるも、長期販売契約である程度の販売目途が付いているのか。また、価格条件は油価連動等で条件合意しているのか。事業期間終盤は 2050 年に近づいており、仮に油価連動の場合は、同時期の油価見通しも含めて、長期的な収益見通しを教えて頂きたい。

A3：事業の収益安定性の観点から、当社として長期安定的な販売の重要性は認識しており、また、プロジェクトとして、一定程度の長期販売契約を確保すべく販売活動を推進中であることは事実。個別の販売活動の進捗や価格条件については、相手先との守秘義務があり、回答は差し控えたい。

Q4：従来のアジア・太平洋域における他 LNG 事業と比較して異なる販売契約条件はあるか。プロジェクトとして目指す販売契約条件の概要だけでも教えて頂きたい。

A4：各買主の要望に沿って協議しており、ある程度、業界動向に沿う形で販売協議を進めているとは言える。一方、個別買主との協議詳細についてはコメントを差し控えたい。

Q5：年産 9.6 百万トンの事業規模に対し、約 55 億米ドルの EPC 契約価格は低い印象あるが、この EPC 契約価格は本事業の競争力に繋がっていると認識して良いか。また、コストオーバーランのリスクはどう見ているか、教えて頂きたい。

A5：EPC 契約価格は一定の競争力を有しており、本事業の競争力の源泉の 1 つと認識している。コストオーバーランについては、当社独自に様々な観点でリスク評価を行った上で、適切な Contingency を織り込んで事業評価を実施している。参考まで、一部の長納期品は既に ADNOC が先行発注しており、長納期品見合いのコスト不確実性は低減されているものと考えている。

Q6：ADNOC から原料ガスを購入する事業モデルとのことだが、ADNOC からの原料ガス調達は、市場からの調達より競争力があると考えて良いか。

A6：原料ガス価格はプロジェクト収益性の根幹を為す為、同調達条件は当社としても慎重に検討した上で、参画意思決定に至ったもの。

Q7：報道によると、三井物産の引取数量は年間 60 万トン。出資比率の 10% 相応の数量より低水準の引取数量だが、背景を教えて頂きたい。

A7：本事業の販売は、事業会社による Project Marketing 方式であり、株主が出資比率応分を引取る Equity Lifting 方式ではない。当社は、一買主として事業会社と協議し、今年年間 60 万トンの LNG 引取りの基本合意に至ったもの。本引取は、当社が取組む物流機能の強化にも資すると同時に、株主としてのプロジェクトの安定収益基盤の強化にも資することを期待している。

Q8：案件概要資料の 6 ページには、開発中の当社参画済の LNG 事業が 3 案件記載、開発準備中が 1 案件と記載されているが、どの事業から生産開始がまず見込まれるのか、時間軸を教えて頂きたい。

A8：当社はエネルギートランジションの現実解として、天然ガス・LNG が重要な役割を担うと認識しており、そのニーズが益々高まる市場の期待に応えるべく、各プロジェクトの早期の生産開始を期待している。個別案件の具体的な状況に関する説明は差し控えたいが、早期の生産開始に向けて、当社として尽力している。

Q9：原料ガスを供給する上流権益の開発状況をどのように評価しているのか教えて頂きたい。

A9：本事業は、ADNOC から購入する原料ガスを液化し販売する中流事業にて、個別の上流油ガス田と紐付かない形で、ADNOC が開発・供給する原料ガスを購入する事業建付け。当社としては、アブダビ首長国での上流ガス権益の開発状況を適切にモニタリングする方針。

Q10：事業スケジュールに関し、2028年生産開始予定との説明であるが、第2系列の生産開始時期、並びに生産がプラトーとなる時期の見通しを教えてください。

A10：資料の通り、まずは2028年に第1系列での生産開始を目標としている。通常のLNGプラント同様に、数か月遅れて第2系列での生産を開始する予定。プラトーに達するまでの期間は各プロジェクト固有事情があり詳細開示できないが、第1系列の生産開始が遅延する場合には、第2系列での生産開始時期並びにプラトー時期にも影響を及ぼす為、適切にモニタリングし対応していきたい。

Q11：低炭素LNGとの説明であるが、同規模の他プロジェクトと比べたGHG排出量の定量的な差異を教えてください。

A11：定量情報の開示はできないが、中流液化工程においては、従来型の事業モデルに対してGHG排出量は大幅に改善される。

以上